

令和4年度 第8回市長と能ん美りカフェトーク

支援希望の会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和4年12月3日（土）13時30分～

場 所 寺井地区公民館

参加人数 4人

1) 市長 挨拶

- ・私自身3人の息子、2人の孫がいることから、市長としてだけでなく、家庭人として皆さま方からいろいろなことを教えていただく機会にしていけたらと思っている。

2) カフェトーク

○支援学校まで遠い、市内で学校を作ってほしい

【参加者】

- ・学校まで遠く負担になっている。通学距離・時間だけの問題ではなく、地域から離れることで子ども同士の距離が遠くなっている。
- ・子どもたちは子どもたちの中で育つのが一番なので、触れ合う機会、相互理解のできる場所を学校の中に作ってほしい。そのために分校でいいので、寺井高校に支援学校を作ってほしい。

【市長】

- ・医療的ケア児を少しずつ受け入れている。いろいろな悩みや不安もあったが、運動会などでみんなと一緒に踊ったり、笑ったりしている姿を見て入ってもらってよかったと思った。
- ・泉台町のインクルーシブパークの建設や亀齢荘のリニューアルなどを通して、いろいろなことを一緒にやってもらえるような機会を増やしていかなければと思っている。
- ・実際に小松の支援学校を見学したが、先生の確保が課題である。高校については、県が管轄になるので、市としては市民からの強い要望がある旨伝えていく。

○支援学級での授業や先生とのやり取りについて

【参加者】

- ・普通学級と支援学級での文部科学省の決まりがあり、普通学級で授業を受けられない時間がある。校長先生によって柔軟に対応してくれる学校もあるが、全てではない。子どもがやりたい授業でも、授業してもらえないことがある。支援学級でそれぞれの子どもが違う教科の授業を受けることがあり、場合によっては、機械音でうるさい中クロムブックなどをしていることがある。（授業が成り立っていない）
- ・クロムブックを使えない子にはクロムブックが与えられず、クロムブックの連絡帳を使っのやりとりができない。学校からは学校便りなどの全体連絡はあるが、担任の先生との双方向でのやり取りは（クロムブックがないので）できない。
- ・コドモンは全体的な連絡だけで、個別の連絡がない。
- ・クロムブックにあるドリルパークの判定が厳しすぎる。タッチペンを使って文字を書くのはとても難しく、普通級の子でも大変そう。判定を緩くしてもらいたい。

【市長】

- ・ドリルパークの判定について、要望があることを伝える。

○特別支援教育について

【参加者】

- ・特別支援教育についての理解が進んでいない。先生でも分かっていない方がいる。県内の特別支援学校は定員を超えているところがほとんどである。各市町村に支援学校が1校あってもいいくらいのニーズがある。
- ・特別支援教育（の指導）は普通の子たちにも使えると思う。
- ・支援学校のこと普通の学校の子との交流を図れるといい。今も制度はあるが、中学校では参加が少ない。
- ・他市町に行くよりは能美市で教育が受けられるといい。近所の人にも知っていてほしい。

【市長】

- ・医療的ケアの子を受け入れるかどうかというときに、ほとんどの保護者が今通っている保育園の子たちを小学校に上がりたいから地元にといい声を多く聞いたが、先生の質を上げる場合、どこかの学校1つに（支援学級を）集中させるということも考えら

れる。

○子どもの療育施設や相談窓口について

【参加者】

- ・自分の子がみんなと違うなと思ったときに相談できる場所、誰もが相談して療育を受けられる場所があるといい。相談できる窓口を一元化したり、訓練ができる場所の情報提供してくれたりするところがほしい。能美市には病院で子どもの訓練（言葉をしゃべる訓練や読み書きをする訓練）をさせてくれるところがないので、小松市（小松市民病院）や金沢市（県立中央病院やこども医療センター）に通っている人がいる。
- ・特別支援教育を専門に扱う課をつくれなにか。
- ・和歌山県の療育センターや長野県の鈴鹿市は進んでいる。

【市長】

- ・先行事例などを調べてみる。
- ・今までは複合的な悩みを持った家庭での相談を窓口が別々だった。今は、専門的な知識を持った人がチームで対応使用と進めている。専門の課をつくるより、チームを作って対応したほうがスピーディーに対応できると思う。

5) 閉会